Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：国際収支(2009年４月)
～経常収支は緩やかな持ち直しへ～

発表日2009年６月８日(月)

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　エコノミスト　小杉　晃子
ＴＥＬ：03-5221-4548

（単位：%）

		原数値 経常収支 (億円)		貿易・サービス収支	貿易収支	サービス収支	所得収支	季調値 経常収支 (億円)		貿易・サービス収支	貿易収支	サービス収支	所得収支
			前年比	前年比	前年比	前年差	前年比		前期比	前期比	前期比	前期差	前期比
07	10月	22065	44.2	97.6	50.4	385	21.8	24646	2.7	▲ 1.5	▲ 1.8	69	3.2
	11月	17058	▲ 2.3	▲ 16.8	▲ 12.1	▲ 343	15.2	18899	▲ 23.3	▲ 28.8	▲ 19.0	▲ 771	▲ 16.5
	12月	15891	▲ 10.8	▲ 33.0	▲ 18.2	▲ 1164	19.4	17018	▲ 10.0	▲ 60.2	▲ 39.6	▲ 678	22.7
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18369	7.9	111.1	47.6	531	▲ 12.9
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15693	▲ 14.6	▲ 53.8	▲ 41.3	187	4.3
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18488	17.8	52.9	36.6	▲ 323	5.1
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	17238	▲ 6.8	26.9	▲ 1.8	1338	▲ 13.2
	5月	19810	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.4	18466	7.1	9.5	9.5	▲ 114	3.6
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14633	▲ 20.8	▲ 80.8	▲ 54.0	▲ 976	11.1
	7月	15693	▲ 15.2	▲ 81.5	▲ 60.0	926	8.4	15960	9.1	224.3	37.6	1391	▲ 7.7
	8月	10610	▲ 49.0	赤字	赤字	761	▲ 5.1	9460	▲ 40.7	赤字	赤字	▲ 723	▲ 5.7
	9月	15646	▲ 46.5	▲ 89.6	▲ 81.9	77	4.9	15060	59.2	黒字	黒字	257	8.1
	10月	9796	▲ 55.6	赤字	▲ 88.1	365	▲ 15.9	10593	▲ 29.7	赤字	▲ 92.5	162	▲ 7.7
	11月	6236	▲ 63.4	赤字	赤字	643	▲ 15.4	4371	▲ 58.7	赤字	赤字	▲ 627	▲ 5.1
	12月	1629	▲ 89.7	赤字	赤字	215	▲ 27.5	5922	35.5	赤字	赤字	▲ 547	▲ 4.1
09	1月	▲ 1728	赤字	赤字	赤字	▲ 42	▲ 31.5	1121	▲ 81.1	赤字	赤字	▲ 133	▲ 13.8
	2月	11169	▲ 55.6	▲ 94.3	▲ 80.4	▲ 478	▲ 34.1	6850	511.1	赤字	黒字	▲ 182	▲ 1.6
	3月	14856	▲ 48.8	▲ 91.7	▲ 89.3	170	▲ 13.0	9023	31.7	赤字	67.5	306	24.7
	4月	6305	▲ 54.5	赤字	▲ 69.2	▲ 785	▲ 18.5	9663	7.1	黒字	588.7	183	▲ 14.0

（出所）財務省「国際収支状況」

○４月の経常収支は前年比▲54.5%

４月の経常収支は前年比▲54.5%の6,305億円（原数値）と３ヶ月連続の黒字となった。貿易収支は、中国を中心とした景気対策の効果や世界的な在庫調整の進展などにより、輸出が持ち直していることで、３ヶ月連続の黒字となった。所得収支については、前月に続き直接投資収益の黒字幅は拡大しているものの、証券投資収益の黒字幅縮小が続いていることから、７ヶ月連続の前年割れとなった。

経常収支は大幅な前年割れが続いているが、'09年１月に赤字となってからは改善しており、季節調整値でみても、３ヶ月連続で増加している。水準は低いものの、'09年１月をボトムに緩やかに持ち直していると判断できる。輸出が持ち直していることがその背景にあるといえよう。

○所得収支の弱含み基調は継続

経常収支の内訳をみると、貿易収支は1,843億円(前年比▲69.2%)と３ヶ月連続で黒字となり、マイナス幅も縮小した。昨年後半以降、急速な減少が続いていた輸出が、海外における在庫調整の進展などにより、緩やかに改善していることから、貿易収支もこのところ持ち直しの動きがみられる。

サービス収支は▲4,717億円(前年比+19.9%)と、前月から赤字幅が拡大した。貿易量の縮小などにより「輸送」の赤字幅が拡大したほか、「旅行収支」も、燃料サーチャージの値下げや大型連休の効果などにより、出国

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

日本人数が 24 ヶ月ぶりに増加に転じたことなどから、支払が受取を上回り、赤字幅は拡大した。

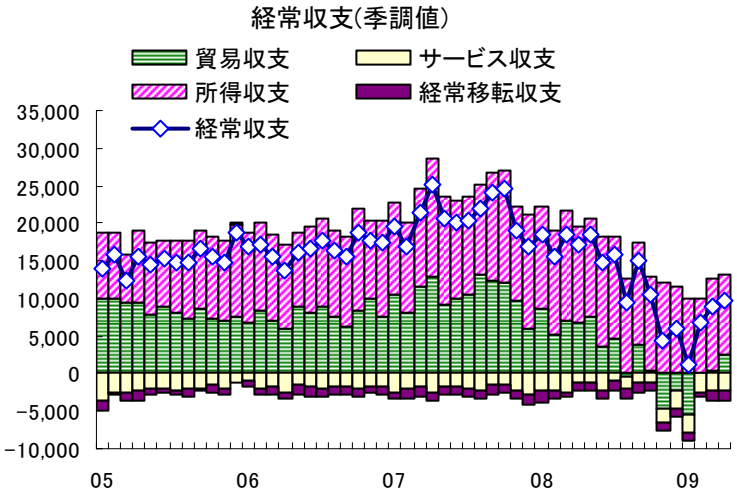
所得収支は 1 兆 567 億円（前年比▲18.5%）と、７ヶ月連続の黒字幅縮小となった。「直接投資収益」は、海外子会社からの配当金の受取が増加したことで、２ヶ月連続の黒字幅拡大となったが、「証券投資収益」は、円高や金利の低下などにより、「債券利子」及び「配当金」の受取の減少が継続していることから、全体として黒字幅は縮小した。

○先行き貿易収支の改善が予想されることから、経常収支も持ち直す見込み

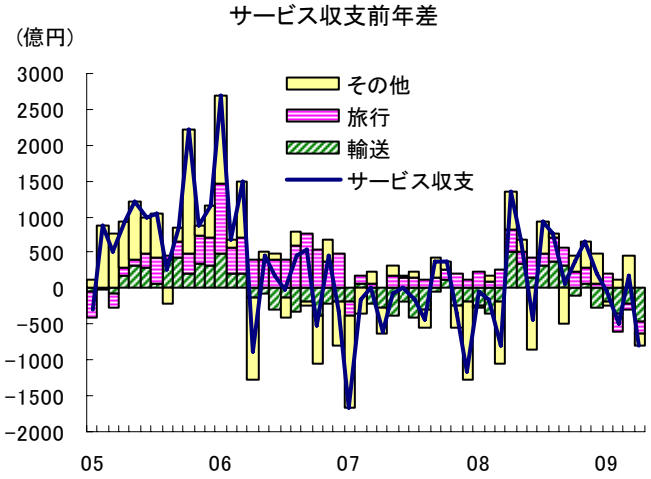
経常収支の先行きについて展望すると、まず所得収支に関しては、海外子会社の業績悪化、金利の低下などから証券投資収益が弱含み、今後も前年割れの状況が続くと予想される。

次に貿易収支は、輸出が持ち直し始めたことから、先行き持ち直しの動きが続くと考えられる。輸出に先行する傾向のある米国ISM製造業(新規受注)景気指数などの指標が、ここにきて改善していることから考えて、輸出は引き続き増加傾向で推移する可能性が高い。

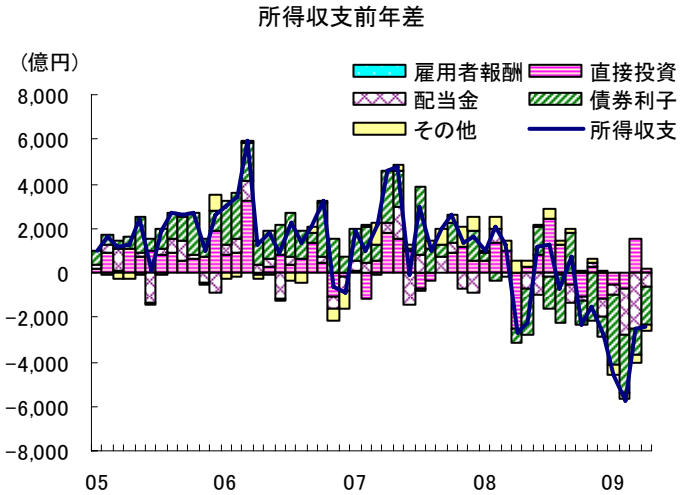
以上を踏まえると、先行き経常収支は持ち直すことが予想される。



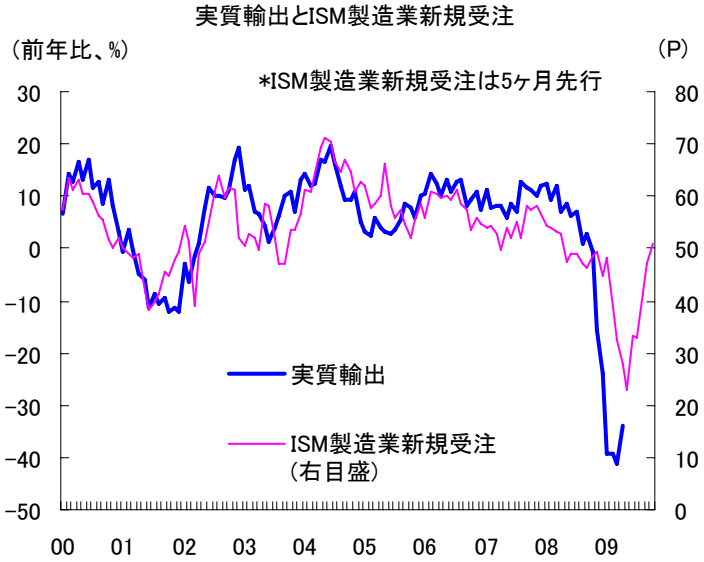
(出所) 財務省「国際収支状況」



(出所) 財務省「国際収支状況」



(出所) 財務省「国際収支状況」



(出所) 日本銀行「実質輸出入」、ISM

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。